

▶源平の合戦をテーマにした能の披露



◀山口さんによる庄巻の書道パフォーマンス



芸術、美術の各分野で活躍する面々がジャンルや国境を越えアートを発信するイベントTERRA de ART in TAKUが専称寺(多久町)で、11月23日から29日まで開催されました。

主催者は多久町出身で現在西唐津中学校校長の牛丸和人さん。「美術教師として長年指導を行う中で、生まれ育った多久で“アート”をテーマに恩返しをしたいと思ったのが開催のきっかけです」と語りました。

初日の23日には、本堂を会場に能楽師として活躍する林本大さん(大阪府)らが能の基本動作や、源氏と平氏をテーマにした能を披露。また、吟遊詩人の三好直樹さん(佐賀市)による詩、マカオ在住の画家Aquinoさんの巨大鉛筆画、EVAさんによるオリジナルソングが披露され、来場者を魅了しました。

ギャラリースペースでは、牛丸さんが描いた100号の絵に書道家の山口芳水さん(佐賀市)が「諸行無常」と「諸法無我」の言葉を書き上げる書道パフォーマンスが披露され、来場者からは大きな拍手が送られていました。

ジャンルや国境を越え、多久からアートを発信

TERRA de ART in TAKU

「ありがとう」の気持ちを込めて

市内保育園児が勤労感謝の花束贈呈

勤労感謝の日(11月23日)を前に、11月20日、市内保育園児の代表12人が、日頃の感謝の気持ちを込めて、市内3か所で花束の贈呈式を行いました。これは、身近で働いている人や家族に感謝する気持ちを持ってほしいと多久市保育協議会が毎年続けているものです。

市長への贈呈式では、園児が元気よく「いつもお仕事ありがとうございます」とあいさつし、横尾市長は「ありがとうと言われると、元気になります。みなさんも、おうちの人にいつもありがとうと話してください」と笑顔で応えました。

このほか、園児たちは、市議会、福祉課、小城警察署多久幹部派出所、多久消防署を訪問。訪問先では、かわいい来訪者に職員たちの笑顔があふれていました。

花束贈呈のお礼として、多久幹部派出所では、パトカーや白バイの乗車体験をさせてもらい、また、多久消防署では、救急車や消防車に乗せてもらったり、はしご車で遠くを見渡したり、日頃できない経験に、園児たちは大興奮の様子でした。

▶贈呈式後にみんなで記念撮影



◀多久幹部派出所での白バイ乗車体験。園児たちも大満足の表情でした。



11/27 Thu.

長寿の秘訣は楽しみを持つこと!



多久市老人クラブ連合会主催「第27回多久市すこやか長寿祭」が中央公民館で、市内10の老人クラブと、ケアハウス「大地」が参加し、開催されました。多久市老人クラブ連合会の西山英徳会長からの「元気ですこやかに長寿を楽しみながら、交流を深めましょう」のあいさつで幕を開け、各老人クラブの歌や踊りの24演目が発表され、約400人の観客でにぎわいました。

各クラブは今回の発表のために、公民館などを利用して練習に励んだり、手作りの衣装を作製したりと、趣向を凝らした演出で会場を盛り上げ、祭は盛況のうちに幕を閉じました。

11/18 Tue.

建設業の重要性と魅力を伝えたい



(一社)小城建設業協会が“こども建設新聞”を発刊し、11月18日の「土木の日」にあわせ東原庁舎中央校で贈呈式を行いました。

この新聞は、建設業の役割や活動などを知ってもらおうとの取り組みで、第1号を創刊。多久市・小城市の児童生徒を対象に無料で配布されました。

贈呈式では「私たちの仕事を見てもらって興味を持っていただければ幸いです」と小城建設業協会大石強理事があいさつ。代表として、中学部の椿原健太郎さん、小学部の品川愛佳さん、吉次妃詩さん、森下陵斗さんがお礼や感想などを述べました。